

どんな子みっけ!

運動会や区民まつりなど、お客さまに観ていただく心地良さを感じ、またご家族に、「がんばったね!」「すてきだったよ!」と誉めていただいたことが喜びとなって、一層活発な子どもたちです。



そんな中、お母さま方から心配の声を耳にすることも増えてきました。「家に帰ってくると“仲間に入れてもらえなかった”って言うんです。」とか、「“だれも遊んでくれない”って言うんです。」など。子どもの言うことだからと様子を見ていたお母さんもいましたが、帰ってくると毎日言うので、幼稚園でどんな風にお友だちと関わっているのか心配になったようでした。

幼稚園での様子はというと・・・そのようなやりとりはこの時期に限らず、時々見かける光景でもありません。先日、男の子がおままごとをしているグループに、「仲間にいーれて!」と入って来ました。するとすぐに「だーめよ!」と返ってきました。また他の子が言いに来て「だーめよ!」と返します。その様子を見てみると、遊びに集中して余裕がなかったりするだけで、「イヤ」とか「キライ」などの深い感情があるわけではないように見えます。傍で見ていた子に、「だーめよって言っちゃいけないんだ〜」と言われると、「そっか!」とか「じゃあいいよ。」と、すぐ撤回する様子もあります。また別の日、断られてしまった子が、逆の立場になると、「だーめよ。」と返す姿を目にすることもあって、「いーれて」「だーめよ」は、言葉遊びの延長

で、やりとりをリズムカルに楽しんでいるようにさえ見える!子どもたちにとっては、遊びの中の一片と捉えてもいいかなということが多いのです。

でも、先生たちはそう捉えつつ目にする度に、「仲間が増えたらもっと楽しいのよ!」と伝えたり、「だーめよ」を「あーとで!」など、柔らかい言葉を使うように促したりして、お互いの様子をみながら仲介に入るようにしています。そして、いれてもらえなかった子には、「お庭で氷鬼やってるの。一緒にやらない?」と他の遊びに目を向けてあげることによって、今まで興味がなかった遊びや、いつもとは違う友だちと関わるきっかけになることもあります。そうして“遊んでみたら楽しかった体験”が、「だーめよ」と言われても臆することなく、いろいろな遊びに仲間入りできる子になる!そう願っているのです。

幼いうちは、思い通りにならなかったことをお家に帰ってから言うことが多いのかもしれませんが、でも、集団生活では、なんでも自分の思い通りにならないことも、子どもたちはよくわかっています。ですから、もしお家で「仲間に入れてくれない」ともらす時には、敏感になり過ぎず、新しい世界を広げるチャンス!と捉えて、背中をそっと押してあげてください。でもご心配なら〜こっそり先生にお知らせくださいね。



こんな

「こんな」は、ようちえんで起こる
こんなとき・こんなこと・こ～んなにを
折々お届けします。

おもちゃなの?

お子さんに携帯電話を渡して、失敗したことありませんか?

ある日、年少組の保育室から内線が入りました。緊急事態!と思って慌てて出ると、「もしもし、いま〇〇だからね〜!」と男の子の声。声の様子から緊急性はないと判断してお部屋を覗きに行きました。すると、子どもたちがおままごとの舞台になって、近くの電話機が格好のおもちゃになったようです。

「ねえ!今お電話した?」と聞いてみると、「うん!今から帰るので!」と男の子。“帰るコール”が当たり前という様子で答えるので、思わず笑ってしまいました。いろいろなことを学んでいる真っ最中の年少組なので、遊びに使っていいものの区別を学んでほしいと思いをかけましたが、最近はおもちゃの手が届く所に物が溢れているので、区別が難しいのだろうとも感じた出来事でした。

年少組



まねっこが大好きな子どもたちは、大人が使っているものが気になって触ってみたいと仕方ないようです。

出しっ放しで・・・

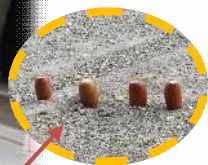


お片付けをきちんとしない日が
続くと・・・「〇〇組からおも
ちゃが消えた！」なんて苦い体験
もしてもらうことがあります。

「こら～！おもちゃ出しっ放しで帰るのはだれだー！」ある日、先生の声が園庭に響きました。いつもより早く2回目のバスが到着し、それをベランダから見つけて慌てて降りて来てしまったようです。先生の声聞いて慌てて戻ってくる子あり、「だってバスが～」とベソをかく子あり、知らんぷりしている子もいました。でも、すべきことはきちんとしてほしいので、先生が遊んでいた顔ぶれに声をかけお部屋に戻しました。片付けをしなければならないことはわかっている、バスに乗り遅れると思ってそのままにしてしまったようです。“片づけをしなければバスに乗れない”“おもちゃが使えなくなる”など、時には緊張感のある体験も成長には欠かせません。自分のしたことに責任を持つ、遊びの中でこそ、大切な体験なのかもしれません。



こ～んな子みっけ！



「どんぐり
植えたいんだ！」



ネイチャーランドから、秋のお土産（あけび）。種ごとお口に入れて～“あま～い！！”

虫たちのわんぱく



そばの花をし～っくり観察。
「三角がついてる！」
そばの実を見つけて喜ぶ年長組。

秋たんけんでは、年中・年少さんのお世話をしながら活動的な年長組ですが、とっておきの『たんけん』がありました。それは、9月に種まきした“そば”の観察でした。幼稚園のここに畑に蒔いたそばは、花からそばの実らしき三角のつぶつぶが出て来て、だんだん茶色っぽくなってきました。ネイチャーランドの畑は、台風の被害があるかもと心配していたのです。

畑を見てみると、風に煽られて傾いているそばがあるものの、花が付いているものや、実が茶色くなってきているものもあり、それを見て安心した子どもたちでした。

でも、『たんけん』ですから、そのうちに「バッタ見つけた！」「カエル捕まえたよ」と虫探しが始まりました。その中で、てんとう虫はなかなか捕まえられません。先生が「てんとう虫はおてんとうさまに向かってどんどん上に登って行くんですって。」と伝え、と、「おてんとう虫」なんて言いながら、てんとう虫が向かって行く枝先の方に手を伸ばしました。すると捕まるまいと隣の枝に移ったり登ったりしてどんどん逃げて行く様子を見て、「鬼ごっこしてるみたい」「ここはてんとう虫の『わんぱく』だね！」と男の子が言いました。大自然の中でみんなでおでこを突き合わせてじーっと虫を観察する。これもとっておきの秋『たんけん』でした。

